

アンダーライン 令和5年度追記

教育目標・指導の重点

50周年後の新たなスタート
未来を自らの力で切り開く力を育てる
教育活動の推進

めざす学校

八坂小の8つの取組

1 各教科／道徳

- ◇校内研究(国語科)
◇特別の教科「道徳」自分事として考える
◇めあて板書の日常化
「学習のゴール」の位置付け
◇大切に振り返り、書く活動の重視
◇練馬学びのガイドの活用
◇算数少数習熟度学習(1～6年)
◇タブレットを活用し学習履歴の蓄積
◇読み解く力の向上(新聞記事活用)(5・6年)
◇「すくすくタイム」で基礎学力向上
◇授業規律の定着
◇外国語活動の充実
◇体力の向上 体育科の授業改善
◇オリンピックレガシーの継承

2 人権教育・健全育成

- ◇チーム八坂小として全職員で常に児童理解と指導改善に努める
◇特別支援教育「コ-ディネーター5名体制」
SC・学校生活支援員・心のふれあい相談員との連携
◇いじめの見逃し0 不登校0
毎月の「学校生活アンケート」
◇早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣

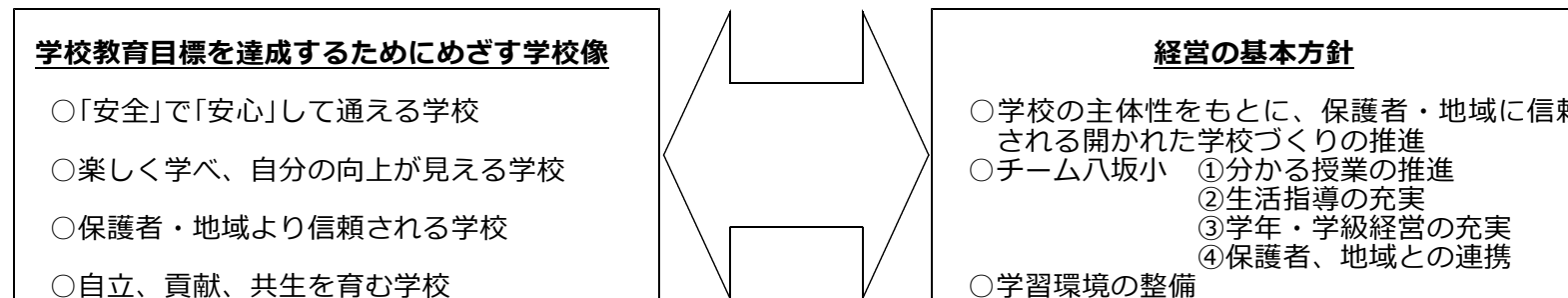
7 保護者・地域 連携

- ◇学校メール(ポータル)の活用
◇家庭学習の定着(学年×10分)
◇地域人材活用事業の実施
◇地域コーディネーターとの連携
◇地域を生かした学習カリキュラム実施
◇地域未来塾の充実

Table with 3 columns: Head (よく考える子), Heart (心ゆたかな子), Health (たくましい子). Each column contains a brief description of the goal.

八坂小学校は、常に子供のためにある学校である。50周年というこれまでの歴史と伝統を継承し、52周年になる今年も、誰一人取り残さず 創造性と可能性のある学校経営を進める。そして、新たな時代に求められる「未来を自らの力で切り開く確かな学力」を育み、子供の自立、貢献、共生を支える学校を目指す。
なにより、子供自身が自分の成長を実感できる教育活動を推進していく。

Hand to Hand
「やさしく やりぬく 八坂の子」
「みんなで 育てる 八坂の子」
やる気・本気・根気・勇気・元気にあふれた学校
「心のふるさと 八坂小」



確かな学力
◇練馬区学びのガイドを生かした授業革新の推進
「目標」「指導」「評価」の学習サイクルの徹底により、一単位時間の学習が一人一人の児童にとって主体的・対話な学びの場となることをめざす
◇個々の習熟度に応じた学びの推進
一人一台タブレットや「すくすくタイム」、学力向上教室等を活用した基礎・基本の定着
◇地域と連携協力した体験学習の充実
◇読書活動・調べる活動・発表する活動の重点化

豊かな心
◇失敗を恐れずチャレンジする環境づくり
◇あらゆる差別や偏見をゆるさな心の育成
◇互いの人権を尊重した規範意識の育成
◇子供の成長を共感的に支援
◇特別の教科「道徳」の充実
◇道徳的実践力の育成(体験活動)・挨拶運動・異年齢交流
◇いじめ0、不登校0
「学校生活アンケート」の実施
◇潤いのある校内・校外環境の整備(栽培活動・校内掲示)

安全・健康・体力
◇「自分の命は自分で守る」関係機関と連携した児童の危険回避能力の育成
自転車安全教室・セーフティ教室・情報モラル教育・薬物乱用防止教室
◇「学校2020レガシー」教育の推進
運動を通しての体力づくりの推進
◇健康教育、食育を通じた基本的な生活習慣の確立

◎ 授業研究の日常化
自分の思いや考えを表現する児童の育成(国語科 説明文を主体的・対話的に読むことを通して)

3 特色ある教育活動
◇キャリア教育
・夢と希望をもってよりよく生きようとする児童の育成
・農業体験等を通しての勤労感の育成(1～3年)
◇安全教育
・保護者・地域と連携した防災訓練(9月)
・防災学習(5年)
◇学校図書館の活用
・区立稲荷山図書館・学校図書館支援員との連携
・読書旬間の毎学期設定
・調べる学習発表会の設定

4 特別活動
◇異年齢活動の充実
「スマイルタイム」「児童集会」の実施
◇体育的活動の充実
体力向上旬間・持久走旬間等を通して、体力の向上・健康の保持増進
◇委員会・クラブ活動の充実
◇児童会と生徒会の交流
◇キャリアパスポートの取組
◇地域との交流活動

5 小中一貫教育幼保小連携
◇9年間を見通した指導の充実
◇出前授業・リトルティーチャー・部活動体験、合同挨拶運動による児童・生徒交流
◇スタートカリキュラムの推進
◇近隣幼・保育園との交流学习

6 特別支援教育
◇子供の成長を共感的に支援
◇特別支援教室「わかたけ」の活用
◇学校全体での組織的な対応(コ-ディネーター)
◇特別支援コ-ディネーター・スクールカウンセラー・心のふれあい相談員との連携した児童支援
◇UD教育の推進

8 働き方改革
◇生体認証による在校時間管理
◇週時程や学校行事等の見直しによる業務充実
◇校務改善委員会による改革推進